

令和7年2月10日

令和6年度大田区青少年問題協議会
(第3回)

令和 7 年 2 月 1 0 日

午後 2 時 0 0 分開会

○有我地域力推進部長 本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
ございます。

これより令和 6 年度第 3 回青少年問題協議会を開催させていただきます。

地域力推進部長の有我でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

恐縮ではございますが、着座にて進めさせていただきます。

この協議会は、公開原則に則りまして傍聴制度を導入してございまして、区ホームページにて本会議録の公開を予定しております。

また、本協議会の会長は、大田区青少年問題協議会条例第 4 条第 1 項におきまして、区長が務めることと定めてございます。

開会に当たりまして、本協議会の会長であります鈴木区長からご挨拶を申し上げます。

○鈴木区長 皆様、こんにちは。本日は、連休の狭間というところでございまして、大変お忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。委員の皆様には、日頃より大田区の青少年健全育成にご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。暦の上では立春を迎え、少しずつ春の足音を感じられる季節となつてまいりました。また今年 1 年もよろしくお願い申し上げます。

それでは、着座にて発言させていただきます。

東京都は、昨年 1 2 月に開催した青少年問題協議会において、令和 7 年度から 5 か年を計画期間とする、第 3 期子供・若者計画の答申案をまとめました。答申案では、計画期間中に取り組む事項に、健やかな成長と社会的自立の支援、社会的自立に困難を有するこども・若者やその家族への支援、健やかな成長を社会全体で支えるための環境整備の 3 本柱が明記されております。3 月中には計画が決定、公表される予定でございます。

区の青少年問題協議会におきましても、次期大田区子ども・若者計画については、令和 5 年度からの 2 年間にわたりご審議をいただいていたところでございます。来年度は、いよいよ計画策定年次を迎えます。大田区基本構想に掲げる、「未来を創り出すこどもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち」の実現を目指し、こども・若者を対象に、昨年実施した意向調査の結果等を踏まえた上で、区のこども・若者の実情

に即した計画策定に臨んでまいります。

本日も委員の皆様方より幅広い視点からご意見を賜りますようお願いを申し上げます。
して、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○有我地域力推進部長 ありがとうございます。

本日の進行でございますけれども、第1回同様、資料をペーパーレス化しております。
資料の確認に入る前に、タブレットの操作方法について説明をいたします。

-----タブレット操作方法の説明-----

○有我地域力推進部長 それでは、次に、本日の資料の確認をいたします。

まず、本日の次第、次に、

資料1、大田区青少年問題協議会委員名簿

資料2、次期子ども・若者計画策定に係る区民意向調査結果について

資料3、意向調査集計資料 となります。

次に、次第2の委員紹介でございます。資料1、大田区青少年問題協議会委員名簿
をご覧ください。本来であれば、お一人お一人、皆様をご紹介させていただきたいと
ころでございますけれども、会議の効率化を図るため、大変恐縮ではございますが、
資料1の名簿に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、これから議事に入ります。

ここからの進行は、座長の青木委員にお願いいたします。よろしくお願いいたしま
す。

○青木座長 東京成徳大学の青木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。で
は、着座にて、失礼いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、次第3、次期大田区子ども・若者計画の策定について、青少年健全育成担
当課長からご報告をお願いします。

○竹田青少年健全育成担当課長 私から次第3、次期大田区子ども・若者計画の策定に
つきまして、説明をさせていただきます。

こちらは、資料はございません。昨年12月に令和7年4月1日付組織改正案が示
され、子ども・若者計画の所管所属が、現在の地域力推進部から現在のこども家庭部
に移管される予定となりました。次期大田区子ども・若者計画の策定に向けては、令
和5年度から2年間にわたり、青少年問題協議会委員の皆様にご審議いただいていた

ところですが、4月からは、次期子ども・若者計画の策定については、本日、皆様にご出席いただいている青少年問題協議会ではなく、こども家庭部の協議会等において審議がなされる予定です。皆様からこの間、ご審議いただいた内容や、方向性等については、所管課へ引継ぎ、次期計画に反映いただくよう取り計らいます。子ども・若者計画を策定する協議会の構成いかんによっては、青少年問題協議会の委員と重複して、次期子ども・若者計画策定審議をお願いさせていただく方もいらっしゃるかと思いますが、その際はよろしくお願いいたします。

青少年問題協議会の所管に変更はございません。来年度も青少年問題協議会は開催し、青少年の健全育成に関わる新たな審議テーマを設定し、進めさせていただく予定です。

なお、令和7年4月1日付組織改正案は、2月14日から開催される、大田区議会第1回定例会における議案審議を経た後、正式に決定される予定ですので、ご承知おきください。

私からの報告は以上です。

○青木座長 ありがとうございます。

ただいまのご報告では、令和7年度、区の組織改正が予定されているということ、子ども・若者計画の所管が現在の地域力推進部から現在のこども家庭部に移管される予定であること、子ども・若者計画の策定審議は、来年度からこども家庭部の協議会等に引き継がれ、審議される予定であること、子ども・若者計画策定の協議会の構成メンバーによっては、青少年問題協議会の委員と重複する方もいらっしゃるかもしれないということでした。次期子ども・若者計画策定に向けては、令和5年度、6年度の2年間にわたり、青少年問題協議会で審議してまいりました。ここで話し合われた計画の方向性や内容については、事務局が確実に次の所管部局へ引き継いでいただくようお願いしたいと思います。

こちらについて、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、次第4、審議に入らせていただきます。

今年度は、次期計画策定に向けた、区民意向調査を実施するということで、皆さんには、第1回、第2回を通して、調査項目についてご審議いただきました。また、あわせてこども・若者から直接意見を聞く、こども・若者意見交換会も実施いただきました。

では、調査結果について、事務局からご報告をお願いします。

○竹田青少年健全育成担当課長 それでは、私から、資料の2、資料の3を用いまして、次期子ども・若者計画策定に係る区民意向調査の結果についてご報告させていただきます。

区民意向調査の実施に当たりましては、第1回青少年問題協議会において、委員の皆様にご15項目の調査項目案についてご審議いただき、第2回青少年問題協議会の書面会議にて調査の設問、選択肢などを確認いただきました。大変ありがとうございました。

初めに、資料2、次期子ども・若者計画策定に係る区民意向調査結果についてをご覧くださいませでしょうか。調査の概要をご説明させていただきます。

調査は、令和6年11月1日に開始し、郵送で回答する場合は11月20日、ウェブで回答する場合は11月24日を提出期限として実施しました。

調査対象は、大田区在住の15歳から39歳の男女3,000人とし、758件の回答が得られました。回収率は、25.3%でした。標本誤差を算出する式に当てはめるところ、回答数758件から得られた結果と、区の15歳から39歳の人口24万69人全員から得られる結果との誤差は、プラス・マイナス3.55%に収まる結果となりました。

ここからは、資料2と資料3、集計結果を用いまして、回答の内容の説明をさせていただきます。該当部分は、タブレット上で表示しますので、ご覧いただけたらと思います。本日は、結果に特徴のあった項目を中心に説明させていただきます。

初めに、自己肯定感についてです。資料2の2(5)をご覧ください。資料3であれば、7ページ、問2の結果をご覧くださいませと思います。

あなた自身について、次のことがどれくらい当てはまりますかと質問しました。

「ア 今の自分が好きだ」～「キ 自分には長所があると感じている」について、当てはまる、どちらかといえば当てはまる、どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない、の4つの選択肢のいずれかに回答いただきました。年齢別では15歳から19歳と、30歳から34歳がほかの年齢層に比べて比較的高いことが分かりました。家族構成別では、夫婦とこどもで暮らす世帯は自己肯定感が高く、単身世帯や夫婦のみでの世帯では低くなりました。

全体でクロス集計をしたところ、こどものいない世帯の中でも若い世代について、

また、こどものいる世帯については自己肯定感が高い結果となりました。

続きまして、成長・社会的自立についてです。資料2の2（6）をご覧ください。
資料3でしたら、22ページ、問8の結果をご覧ください。

問8では、あなたは、将来の自分がどのようになっていると思いますかと質問し、「ア 何でも話せる人がいる」～「キ 結婚している・パートナーと生活をしている」について、そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わない、の4つの選択肢のいずれかに回答いただきました。全体では、何でも話せる人がいる、自分の収入で暮らせる仕事に就いている、共通の趣味を持った仲間がいる、の順に多くなりました。年齢別に見た場合では、結婚している・パートナーと生活しているという将来像について、20から24歳がほかの年齢層に比べて低い結果となりました。この「結婚している・パートナーと生活している」という結果を除いて全体を見た場合、年齢が若ければ若いほど将来像を高く見ている傾向にあることが分かりました。

続きまして、地域への愛着、関係性についてです。資料2の2（7）をご覧ください。資料3の場合は、42ページ、問12、問13の結果をご覧ください。

問12では、あなたは、地域のお祭りや行事・イベント等にどのぐらい参加していますかと質問し、よく参加している、ある程度参加している、参加したことはある、参加したことがない、の4つの選択肢のいずれかに回答いただきました。全体では、ある程度参加しているが最も多く36.9%、次いで、参加したことがないが28%でした。年代別に見ると、15歳から19歳の参加割合が最も高く、66.3%となりました。

43ページ、問13は、選択肢の中で、参加したことがないを選択した理由について最も近いものは何かをお伺いしました。結果、興味がないが最も多く36.8%、次いで、仕事・学業で忙しいが26.9%、知りたい、参加したいが情報が届いていないが15.6%、プライベートで忙しいが10.8%となりました。その他、自由記述では、一人で参加しづらいが4件、地域とのつながりがないので参加しづらいが4件、その他、存在を知らない、参加の方法が分からない、こどもがまだ小さい、たくさん人がいるところに連れていくのが大変というご意見をいただきました。参加したことがないと回答した理由別に自身の将来像を評価したところ、プライベートで忙しいと回答した方の将来像の値が最も高くなり、興味がないと回答した方の将来像は

最も低くなりました。

次に、区の青少年事業の認知、参加意欲についてです。資料2の2（8）をご覧ください。資料3では、45ページの間14の結果をご覧ください。

下記の青少年事業を知っていますかと質問し、選択肢に、Oh！！盛祭、子どもガーデンパーティー、リーダー講習会、子ども交歓会、こどもSOSの家、全て知らないを設け、伺いました。全て知らないと回答した割合が60.6%と、最も高い結果となりました。知っている順では、こどもSOSの家が29.3%、次に、子どもガーデンパーティーが14.5%でした。年代別で見た場合、知っていると答えた割合が最も高いのは、15歳から19歳、次いで、35歳から39歳となりました。

次に、非行・犯罪についてです。資料2の2（10）をご覧ください。資料3であれば、40ページ、問11の結果をご覧ください。

あなたは次のようなトラブルの経験はありますかと質問したところ、迷惑メールを受け取ったが70.4%と最も高く、次いで、インターネットの長時間利用により睡眠不足になったが42%、偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇したが31.9%となりました。その他、自由記述欄には、ネット上で個人情報が無断で記載された、記載してしまったが4件、クレジットカードが不正使用されたが2件、その他、電車での痴漢、無断で写真撮影、詐欺の電話等が上げられました。

次に、悩みや心配事についてです。資料番号2の2（11）をご覧ください。資料3では、27ページ、問9-1の結果をご覧ください。あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますかと質問したところ、お金のことが最も高く55.5%、次いで、自分の将来のことが51.5%となりました。

30ページの間9-2では、あなたは、悩み事を誰かに相談したいと思いますかと質問しました。ここで、悩み事を誰かに相談したいと思わないを選択した方に、その理由をお聞きしたところ、自分で解決できるからが最も高く48.8%となり、相談したとしても解決すると思えないからが31.1%となりました。

ここで、若者の将来像との関係性をクロス集計したところ、悩みや相談事を相談したいと非常に思うと回答した方の将来像は、31ページにあるとおり、低くはありませんでした。また、相談したくない理由として、自分で解決できるからを選択した人は、将来像が最も高い数字となりました。相談したくない理由に、相談しても解決できると思わない、適切な相談先を知らないからを選択した方は、自身の将来像の値が

低い結果となりました。

次に、情報収集、情報把握についてです。資料2の2（14）をご覧ください。資料3であれば、47ページ、問15の結果をご覧ください。あなたは区からの情報や地域でのイベントなど行政情報をどのような手段で見えていますかと質問したところ、そもそも見ないが最も多く41.7%、次いで、おおた区報が27%、区設掲示板が19.1%となりました。家族構成別に見た際、夫婦と子ども世帯では、おおた区報が41.9%、区設掲示板が29.9%、大田区公式ホームページが25.1%。そもそも見ないが最も低く、18%となりました。

区民意向調査の最終ページには、自由に意見を記載できる欄を設けました。結果、資料2の裏面左側のとおりとなりましたので、ご覧ください。いただいた562件の回答を分類したところ、24に分けることができました。上から、数の多い順に並べました。記載の多い順に、子育て・介護支援、税金等、治安、子育てに関する経済的支援、生活に関する経済的支援となりました。

ここで、参考に、前回の調査との比較結果についてもご覧いただきたいと思います。机上に配付しました、前回比較の資料をご覧ください。こちらは、今回、事前に配付をしていないもので、本日、机上に置かせていただいた資料となります。前回、調査をしたのは、令和2年度でした。令和2年度の結果と、今回の調査結果を上下で並べたものを本日配付させていただいております。前回は、子ども・若者計画の策定時、令和2年度に調査を行いました。前回の調査時期は、新型コロナウイルスが世界中で感染拡大していたコロナ禍でした。マスクが必須で、検温や手指の消毒、ソーシャルディスタンスが求められた時期でございました。

4ページから6ページをご覧いただきたく、お願いします。こちらでは、自己肯定感を聞く設問の結果を示しています。グラフごとに2本の線が引かれていますが、上の線が前回、下の線が今回の結果です。ご覧いただいて分かるように、当てはまる、どちらかといえば当てはまる、の合計は、6項目中5項目について、今回のほうが前回よりも高くなりました。自己肯定感が、令和2年度に比較して高くなったと見ることができます。

また、16ページから18ページでは、将来像を聞く設問の結果を示しています。そう思う、どちらかといえばそう思う、の値の合計は、5項目中4項目について、今回のほうが前回よりも高くなりました。将来像が、令和2年度に比較して高くなった

と見ることができます。

そして、24ページの問14をご覧ください。次の青少年事業を知っていますかと聞いたところ、Oh！！盛祭、子どもガーデンパーティー、リーダー講習会、子ども交歓会、こどもSOSの家、全てにおいて、前回の調査のほうが高い割合になりました。毎年実施してきたイベントが、コロナ禍で実施できなかったことが事業の認知度に影響したと思われる結果となりました。

それでは、最後に、こども・若者意見交換会で上げられた意見についてご報告します。資料2の項番4、こども・若者意見交換会で上げられた意見にまとめましたので、ご覧いただけたらと思います。資料3であれば、56ページ以降をご覧ください。

区民意向調査と並行しまして、こども・若者意見交換会を実施しました。実施にあたっては、一般募集とは別に、フラットおおたの利用者からも意見を聴取しました。

まず、フラットおおた利用者からの意見聴取についてです。フラットおおたの利用者を対象に、区民意向調査と同じ内容のアンケートを実施しました。26名から回答が得られました。得られた主な結果としては、自己肯定感が一般のアンケート調査結果と比較して全般的に低くなったことです。一方、60ページの地域が居場所になっていると回答した割合は、一般に比べて非常に高い結果となりました。

また、65ページでは、悩みの相談先にNPOなど、民間の相談機関の人58.3%、カウンセラー・精神科医50%と、外部専門家への相談を行っている割合が一般のアンケートに比べて非常に高い結果となりました。一般アンケートでは、NPOなど民間の相談機関の人と答えた割合は0.7%、カウンセラー・精神科医は6.3%でした。

そして、フラットおおたで、12月8日水曜日午後、意見交換会を開催したところ、6名が参加されました。フラットおおたのように年齢別の自由に過ごせる場を増やしてほしいといった、居場所や相談の場についてのご意見が多く上げられ、様々な情報がそれぞれ欲しい人に届くよう、目につく場所に掲示してほしいというご意見をいただきました。

また、12月15日（日）午後には、一般募集で参加者を募った意見交換会を実施し、6名が参加されました。地域でのつながりづくり、地域活動の場、居場所を充実してほしいといったご意見や、若者が住みやすいまちづくり、若者向けの情報発信の充実等が上げられたほか、このように意見を自由に言える場をこれからも開催してほ

しいといったご意見をいただきました。

区民意向調査の結果は以上でございます。

○青木座長 ありがとうございます。

ただいま事務局より、今年度実施した区民意向調査の結果についてご報告いただきました。調査結果は、事前に送付したものをご覧いただいているものと思いますので、この場では、結果から分かったことや感じたことなどを中心にご発言いただき、計画策定に当たり、力を入れていく必要がある部分や課題などを浮き彫りにしていきたいと思います。

それでは、ご自由にご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。何か、ご感想等でも結構かと思いますが、今の調査の結果の報告に対して、何かご発言いただければと思います。

○田村委員 区議会、地域産業委員長の田村と申します。

今回の若者のこの調査、すごく精密な、また大変多くの課題、設問に対して本当に当事者が真剣に答えているなというのが実感としてありました。特に、資料3の34ページでは、あなたは普段悩み事を誰に相談しますかという問いに対して、親、また知人・友人ということが上位に入っている一方で、誰にも相談できないというのが2.8%と、この数が多いか少ないかではなくて、やっぱり誰にも相談できないという方にしっかり光を当てていくことが必要なのかなというふうに思いました。特に今、SNSや闇バイトみたいな形でどんどん引っ張り込まれていくこどもたちがいるとすると、区として何ができるのかと考えていく必要があるのかなと思いました。以前、議会の中でも発言いたしましたけども、大田区のホームページから悩み相談を検索していくと、4回、5回とクリックしていかなければならない構造になっています。ですから、トップページに若者の相談というような、まずは扉をつくる、このようなことも必要なのかなというふうに思っています。一方で、勇気を出して相談をしたにもかかわらず、資料3の49ページになりますけども、自由な感想が書いてあります。例えば、職員の質が悪い、当事者意識での相談には乗ってくれずどこか他人事であるとか、以前ハローワークを利用したこともありましたが云々というような感想をお持ちの方がいらっしゃるということ自体、少しこちら側も体質改善というか、丁寧な対応が求められているのかなというふうに感じました。質問というより感想を述べさせていただきましたので、よろしくお願いいたします。

○青木座長 ありがとうございます。必要な情報がすぐにたどり着かないみたいなことについては、フラットおおたのヒアリングのところ、67ページか68ページに出たと思いますので、何かそういったところは今後の課題になると思って聞いておりました。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

○茨田委員 大田区少年少女団体協議会の茨田尚と申します。

いただいた資料を拝見させていただいて、その中で、15歳から19歳の年齢の方の質問の中で、自分は役に立たないと感じているは非常に少ない、全然役に立たない、またその下に、自分には長所があるのだというふうに感じている人は結構たくさんいるが社会に出たり実社会の中でなかなか自分の長所をうまく発揮できなかったり、活用できなかったりして、どうしても挫折してしまうとか、弱気になってしまう。これはもうしょうがないことだと思います。それで、自分でそういったようなことを振り返り、また親族とか仲のいいお友達、上司の人、そのほかに支援する機関とかをうまく活用をして、それを乗り越えていければいいのですが、そういう支援の活動があるにもかかわらず、相談したいとか、相談しても解決できるとは思わないとか、相談することに比較的消極的な若者が結構多い。実際は非常に意義ある、活用のできる支援だと思います。フラットおおたも年々輪が広がって、これを活用して救われていく人もこれから増えるのではないかと考えて、期待しています。全然そういうものに関心がない、見たこともない、知らないというのは、非常にもったいないなと思います。そういう迷っている子、悩んでいる子が機会を逃さないように関わりを持って、自分の生活を開拓していってもらえればいいなと思っております。比較的、年齢が高い方のほうがそういった支援、相談の認知が高いと報告されております。この書類をいただいて感じましたので、お話しさせていただきました。ありがとうございます。

○青木座長 ありがとうございます。そうですね、相談したくない、自分で解決できるという人の将来像のスコアは高かったというところで、相談したい若者よりも、相談しても解決できると思わないとか、適切な相談先を知らないからという理由の人たちの将来像のスコアが低かったということですかね。これもまたやはりいろいろ施策に取り入れていくことができる視点かなと思います。

他にいかがでしょうか。

○岡田委員 公募委員の岡田です。よろしく願いいたします。私もちょっと感想を述

べさせていただきます。

まず、地域が強くないと、やはり災害にも弱くなってしまうので、こどもたちをどうやって地域に巻き込んでいくかというのがもう課題なのだろうなと思いました。具体的には小学校時代の地域交流は地域への愛着につながり、中学、高校、大学の頃に大田区に入ってきた子たちは愛着につながらない、このつなぎ目を何とかしなければ、ちょっと地域が強くないなと思ったことが1点です。

そして、もう一つは、教育のところで、発達障害のサポートを求めている。ここも私の中では意外な感想でした。普通、発達障害サポートを求めるのは親だと思うのですが、自分の発達に凸凹がある、でもどこに相談したらいいか分からない。そして、悶々としている若者たちがいるとしたら、これはとても大変なことだ、大きな問題だと思ってこの資料を見させていただきました。以上が感想です。

○青木座長 ありがとうございます。大変重要な指摘かなというふうに思います。

他はいかがでしょうか。

○岡元委員 大田区議会、こども文教委員会の岡元です。よろしくお願いいたします。

調査方法のことを1点、確認させていただきたいんですけれども、郵送とウェブによる回答で、お礼を兼ねた締切りの再案内はがきの送付とありますが、これはどのぐらい送られてますでしょうか。

○竹田青少年健全育成担当課長 こちらは、3,000人に今回アンケートを無記名で行っておりますので、3,000人全員に督促はがきを送らせていただきました。

○岡元委員 その督促によって増えた数って、どのぐらいですか。

○竹田青少年健全育成担当課長 督促によって何件そこから増えたかというのは、ある意味、調査の期間内でしたので、そういう取り方はしていないんですけれども、督促はがきを送ったことによって、その後、郵送でまとまった数が送られてきたりということとはございました。

○岡元委員 要するに、督促のはがきの効果を伺いたかったところです。

その先ですけれども、ウェブ回答が当然、郵送回答よりも倍以上の数ですが、一方で、大田区の行事とかの情報をどこで見るかということ、そもそも見ないが41.7%、それ以外が、区報と区設掲示板合わせますと、そもそも見ないを超えるということです。ウェブ回答と郵送回答のバランスのわりに若い方々が、区報や区設掲示板を大事にとか、活用されているということから、現在大田区がエックスとかインスタと

かやっていますけれども、それだけではなくて、やっぱり区報、区設掲示板の重要性
というのを再認識した次第です。ありがとうございます。

○青木座長 ありがとうございます。

それでは、他には、いかがでしょうか。

○野田委員 日本工学院専門学校の野田と申します。どうぞよろしくお願いします。

先ほどのご発言がありました、教育の部分ですが、私も期するものがあります。今年度から合理的配慮を求める方は配慮しないといけないということで、私たちの入学にかかる面接などにはご本人や保護者の方に来ていただいて、いろいろできること、できないことを聞きながら決めているということで、合理的配慮は進んだとはいえ、まだまだそこまで認知されてないのではないかと考えております。これが1点目です。

もう1点ありまして、先ほど資料3の34ページ、あなたはふだん悩み事を誰に相談しますかというところで、大体、私もぱっと感じたのは、友達だとか、親とか、兄弟とかっていう話になるのですが、その他の自由記述にC h a t G P Tが2件あったということは、ちょっと衝撃だったんですね。実際、私も何かしら申請しないといけないようなものは、まず、A Iにちょっと聞いてみます。A Iは、かなり正確なものを出してくれるのですが、エックスだとか、L I N Eだとかに、そこに相談するよりも、今後、多分、A Iに相談してくるんじゃないかなと思います。A Iに相談したときに、どういったものが出てきて、そして例えばフラットおおたにつなぐことができるのかとか。だから、入り口が悩み事の場所を求めるのではなくて、どうすればいいのっていうところから入ってくるような気がするんですね。そのときにA Iに聞くっていうのは、ごく一般的のような気がします。今後、A Iというものが、やはり、相談事に大きく関わってくるような気がするのと、ここの34ページのところで思いました。以上です。

○青木座長 ありがとうございます。そうですね、C h a t G P T、私も使っておりますけれども、やっぱり結構会話ができるというか、とても便利だなと思ってありますが、まだ未知数かなと思います。

他はいかがでしょう。

○東使委員 公募委員の東使と申します。

感想を述べさせていただく前に、まず、今回、分かったことについていろいろとご説明いただき、ありがとうございます。その上で、何かこの結果を受けての所感みた

いなところをぜひ、もしよろしければ、大田区長と、あと課長からいただけるとありがたいですけど、いかがでしょうか。

○鈴木区長 まだ皆様からのご意見が出切っていないところで私が発言するのも誘導してしまうようで、どうなのかなという心配もございます。大変多岐にわたるアンケートに基づいて、参考になる結果であったかなと思います。

そして、やはり、若い方々が、例えば情報を得たり相談をしたりするのは、今もお話のあったように、SNSであったり、スマホを通じたり等、色々なところが入口となっていくのだらうと思います。それに対してどう答えるか。例えば行政側にしても、心のこもった回答をしたり、あるいは的確な情報提供をしたりと、その次の段階をしっかりとすることが大事であると思います。

それと同時に区報や区設掲示板など、自分の住んでいるまちで目につく媒体も、より大事です。先日、PTAの懇談会に出席したときに、自分が関心のある情報には目が行くけれども、区報などにはあまり関心がないというところも多い、といったご意見がございました。よってこのアンケートに沿った要望を受け止めた上で、それぞれにどう届けられるのかということ、施策として展開していかなければいけないのだらうと思いました。

○東使委員 変なタイミングで質問をしてしまいすみません。ありがとうございます。
ご回答いただきありがとうございます。

○竹田青少年健全育成担当課長 担当として、この調査を全体として見て思ったところは3つあります。1つは、困難を抱えるこども・若者への支援体制の充実を図っていかねばならないと思っております。

調査で見ていただいたとおり、将来像につきましては、若ければ若いほど、将来への高い期待を抱いているということが分かりました。よって年齢の低いうちから支援の手を巡らせて、困ったときに相談できる場があるというところが大事なかなと思います。フラットおおたなどでも支援を続けておりますけれども、支援体制をより充実させていくことが大切だと思いました。また、悩みや心配事を相談したくないと回答して、相談しても解決できると思わない、適切な相談先を知らないからと回答した方の将来像が低い結果となりました。困難を抱えるこども・若者に必要な情報が届くということ、また相談しやすい環境を引き続き整備していくことが重要だと思いました。

2つ目としましては、皆様からも、区長からもご意見いただきましたが、欲しい情報が欲しいタイミングで手に取れる環境整備が必要と思っております。前回との調査の比較におきましては、イベントや事業の認知度が低い結果となりました。コロナ禍でイベントが中止になったことによる影響は、大変大きかったと思っております。特にガーデンパーティーは、今年度、5年ぶりの開催となりました。認知度を戻しつつ、より高めていくためには、広報や継続した周知活動に力を入れていくことが必要だと考えております。特に夫婦とこども世帯については、おおた区報や区設掲示板、それから、区の公式ホームページで情報収集をしているということが、この調査から分かりました。欲しいときに必要な情報が得られるように、積極的な広報を継続していくこと、丁寧に情報発信していくことが必要だと考えます。

最後に、若年層からの防犯意識の向上、それから、犯罪抑止のための周知啓発が必要と考えます。非行とか犯罪につきましては、全部の年齢の中で、15歳から19歳がトラブルの経験はないと回答した割合が高いことが分かりました。15歳から19歳は、中学校を卒業して社会に出るまで、保護者に守られている世代かと思います。低年齢時から正しい知識を身につけて、将来に備えていくことが求められていると思いますので、区としましても正しい情報を正しい時期に、低年齢時から発信をしていくことの必要性を感じ取ったところでございます。以上でございます。

○東使委員 ありがとうございます。このタイミングでご意見いただき、ありがとうございます。

私自身も今いただいた意見と、感想も含め伝えさせていただきたいと思うんですが、まず、1点目は、資料2、裏面の4（3）のこども・若者意見交換会に私自身も参加させていただきましたので、その話も少し含めてお話しさせていただきたいと思います。

ここで書かれていること、箇条書きで書かれておりますが、実際に参加した方々の熱量といいますか、すごく高く感じております。やはり、若者の声を届ける場がなかなかないということを私自身も、今24歳ですが、感じていたというのがこれまででして、この機会、すごく非常に重要だったなと思っております。例えば、5つ目の観点ですかね、大田区の特徴を生かしたまちづくりなども、やはりそういった意見、すごく多かったかなと思っています。例えば、蒲田に住んだものの、やっぱり遊ぶのは川崎とか、そもそも蒲田とか大田区で何かするという発想がやっぱり若者にないか、

大田区として色々なすばらしいことをやってきているにもかかわらず、なかなかそういったところの情報が得られていない若者と、そしてそれをやっぱり生かし切れていないというところに、課題があるかなと思っておりますので、やはり若者の声を聞いていくという活動自体は非常に重要かなと思っております。

あとは、余談にはなりますが、交換会の前日に、私自身、書道家をやっておりますので、世田谷区の小学校で授業をしてきたのですが、その中で、お子さんからのリアクションであるなど、お子さん自身も年齢が近いというところではできるコミュニケーションが非常にあるかなと思ってます。やはり、若者が活躍できる場というのは、私自身もそうですが、自己肯定感が上がる一因になります。何かしら若者が参加できるスキームをつくるなど、実際できることはまだまだあるんだなということを自分自身も実感しましたので、そういった観点でも今後も継続してできればかなと思っております。

あとは、区長からもありましたように、認知、興味というところですね。これは、まさにこの交換会に参加したときも思ったのですが、やはり、行政、大田区というところに若者はなかなか期待していないというのがあるかなと、正直なところ思っております。これは大田区に限らず、この国の問題だと思うのですが、若者が課題を持ってないのはいけないということではないと思っています。やはり、それは魅力を伝えられていないというところに課題意識を持つべきで、それを今、これは議論していることだと思いますが、例えば、資料2の2（11）の悩み、心配事といったところでも、相談しても解決できると思わないというのは、若者の率直な意見というか、感じていることだったと思います。先ほどまさに生成AIのお話もありましたが、私自身も生成AIの授業をやっていたりするので、もう毎日のように使うんですね。もう人と話すよりも生成AIと話すというのが、僕自身、当たり前になっていますし、そういった時代がもうすぐやってくると思います。その中で、やっぱり行政は何ができるのかということを、考えていく必要が絶対あると思いますし、その中で認知とか興味というところが、資料2（14）でもありますが、全体ではそもそも見ないが41%もあるというところが非常に私自身も悔しいと思いますし、もっと上げていく、認知していただくということが非常に重要だと思います。

その中で、若者それぞれが持ってる興味というのがありますので、そこから風穴を空けて、認知、興味へのアプローチというのを加速していく必要が絶対ありますし、

その中では、生成AIの活用というのは絶対に必要となると思うので、僕はそういった議論を適宜進めていただけるとありがたいなと思っております。

公募委員も4年目になりますが、皆さんがされている活動一つ一つがすごくすばらしいなと本当に感じておりまして、その魅力が伝わらないというのは、どうやってそのチャンネルに届けるかというのは、この4年間もずっとこの議論になっているなと思っています。その中で、やはり、若者が時代等の変化によって、私自身、1つ感じているところをお伝えすると、人間の認知の中で、もちろん前提があると思いますが、やはり価値とかベネフィットっていうのをすごく意識している若者が多分すごく多いんですよね。例えば、スマホを何となく見ているように思われるかもしれないですが、その中で、自分の好きなものを消費するということを、例えばユーチューブを見ていてもティックトックを見ていても、そういったアルゴリズムが整備されてますので、それを、いわゆる効率よく消費できるようになるというのが、サービスのつくり方としてあるので、行政もそれぞれ色々なすばらしい施策をやっているものの、その価値が伝わらないというところと、参加してみたらよかったなと思うことは、これまでの意見でもたくさん出てきていると思うので、取捨選択をしっかりとっていくことと、価値をしっかりと算定した上で、例えば予算の中でも具体、どうやってやっていったらいいのかという議論を加速させていけるとありがたいなと、個人的には思っています。

あと、東京都であったりとか、その他自治体の違いというのが、今回はデータとしてはなかったかなと思うんですが、ぜひそういった観点でも、大田区の強みはどこなんだ、弱みはどこなのだろうというところを理解できるとありがたいなと思いましたので、次回以降、お願いできたらなと思っております。以上です。

○青木座長 どうもありがとうございました。そうですね、若い人たちが地域に参加するということでは、資料2の2（7）のところにも、やっぱりプライベートで忙しいなどと回答が出ていて、確かに本当に若い人たちというのは忙しいというところは、いろんな理由があると思うんですね、なかなか地域に関われないというところもあると思うので。もしかしたら、見方によっては健全なところもあるのかなというふうにも見えるんですけども、ただ、やっぱり、こういう少子化社会、少子高齢化社会で、とにかく地域力というのが失われていくというところの流れの中でいくと、力のある若者というか、若い人たちがどんどん地域に関わっていけるような体制づくりみたいなところはすごく大事なんだろうなということは、東使委員の発言を聞いて

いて思いましたので、こういったところも子ども・若者計画に反映させていけるといいかなと思いました。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか、何かご感想等ございますでしょうか。

○大橋委員 副議長を務めております、大橋と申します。よろしくお願いいたします。

私、この令和２年度の実施との比較の中の２１ページにありますけども、問９－１ですね、「あなたは現在、どのような悩み、相談事がありますか」というところで、お金のこと、経済的にかなり、やはり困っている、困窮している状況が読み取れます。職場の環境、コロナを終えて環境がいろいろ変わってきているので、若干改善といいますか、働きやすい状況にはなってきてるのかなと思うんですが、そんな中でも自分の将来のことというのは非常に不安になっている。これはもしかするとお金のことも関連してなのかなというのと、それとともに、健康・体力、これ比較ではないですが、非常に高いので、やはり、栄養が取れてないとか、将来も不安だということで、心身ともに、これは心配なところが伺えるなと思います。あと、やはり、子育てのことや住まいのこと、生きていく上で非常に不安があるというのを読み取れるなと思います。今、区長も子育てにもすごく力を入れていただいておりますので、やはりこういったところもしっかり力を入れていかなければいけないなというのと、あと政治や社会というところで、制度もしっかり取り組んでいかなきゃいけないというのと、もっと知っていただかなければいけないということも実感をいたします。

資料３の３６ページの問９－５に、「誰にも相談できないと選択した理由をお聞かせください」というところで、こういった金銭的なこととか、様々、健康のこと、抱えているんだけど、結局、相談できる人がいない、相手がない、外国人だから友達とか少ないとか、誰も信用できない、自分の中でためてしまう、うまく説明できない、誰に相談していいかわからないとか、これは非常に孤立をしている状況が見受けられると思います。そうした中で問９－６で「相談した結果改善した経験がありましたか」というところで、改善したというのは、やはり最も高い３８．７％も改善をしているということなので、やはり相談ができる、ただ相談できますよでは若者は相談できない、信用もできていないというところなので、いかに寄り添って相談に乗って、一人一人が心身ともに健康に、将来に向かって夢を持って進んでいけるのか、非常に取組が大事かなと感じました。今のフラットおおたのような、若者がうまくつながっていくような、悩みを言えるような環境をもっともつつくっていかないといけない

ということを非常に強く感じました。

○青木座長 どうもありがとうございます。

○岡元委員 資料3の37ページの自由意見欄に記載のある光バイトとはなんですか。

○青木座長 光バイトって、ご存じの方がいれば教えていただきたいのですが。

○竹田青少年健全育成担当課長 恐らくですけども、闇バイトの反対側の、いいバイトという意味で書かれたのだと思います。

○青木座長 ありがとうございます。

○鈴木委員 自治会連合会の鈴木でございます。

今回の前回から比較したアンケートの結果、非常に参考になります。いろんな立場の方がお越しになられていると思います。それぞれの立場で、あるいはそれぞれの組織が新しい政策をつくる際はそれぞれの組織へ今回のデータを広めて、活用していきたいなというふうに思っているところでございます。もともとそんなに悲観的になるような話じゃないと思っています。少しでもいい社会にしようという中で、少子化、高齢化で社会が少しずつ家族構成が変わってきたんですね、昔と比べたらもう明らかかなのです。ならば、こうなるのは当たり前の話で、人間同士の粘着性というのがどんどん下がってくるのです。そのような中、ここにおられる方皆さんは弱者を守っていかうじゃないか、あるいは、青少年育成をやっていかうじゃないかと、青少対も含めて、学校の立場でも、地域でも全くそういう思いで活動している。またこの情報のあり方については非常に勉強になって、回覧板だけでなく、ホームページだとか、LINEとか、いろんな形で、どうやったら情報が届くのかという工夫をしているわけでございます。青少年、こどもは宝であるのは間違いないのです。世の宝であるという主張を入れる中で、それぞれの組織が今回のデータを例として活用していくことができたというのが、私の今回の資料を見せていただいた感想でございます。以上です。

○青木座長 どうもありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

○松原委員 先ほどの報告の中に、やっぱり、コロナ禍の影響が大きかったという報告があったと思います。私もそれをものすごく強く感じてるんです。身近でなんですけれども、せっかく大学入ったけれども、ほとんどリモートであって、結局、友達と会うことができない。その結果どうなったかということ、学校に行ってもしょうがないとい

うことで退学したり、あるいは、鬱状態になったりして休学になっているというお子さんが結構見られます。中学生とか、高校生であれば、日常적으로お会いできますが、大学生ですと会えないと、あんまり学校に通っている意味が本当なくなってしまうので、サークル活動とか、そういったことができればいいんですができなかった。そうってしまったということは、やはり若者が集う場所が欲しいっていう方がいっぱいいたと思うのです。20代前半の人たちが集うところが今、ないのかなという感じがしています。同じように活動できる場がないのかなという感じがしているので、何かその辺のところをうまくこれからやっていく必要があるのではないかと感じています。

それで、15歳から19歳は割と関心持って、いい結果が得られているようですが、青少対のジュニアリーダーですかね、この活動の影響が大きいと思うのです。そういった集う場所とかを設定して、やっぱり子どもたちは集って、戯れて、群れて、それが一番大事だと思うのです。そういった場を多くしていくことが大事かなと思います。

○青木座長 ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

○玉川委員 副区長の玉川と申します。

今回のアンケートの中で、私が注目したのは、悩み事を皆さんそれぞれお持ちになっているのだけれども、それに対して誰に相談しますかというところなんですが、意外と皆さん、親であったり、友達であったり、会社の同僚であったり、関係性の中で話し相手があるのかなというふうに思いました。そこで解決できているのかどうかという部分も、かなり多くの方が解決できているというふうに回答していて、それぞれ若い方々、自立的な関係性の中で世の中渡ってるのかなというふうに思ったのは一つなんですが、そういう中で、誰にも相談する相手がいないよという回答も少なからずあるということと、相談した結果、解決に至らなかったっていう回答もあるわけですね。私は、やっぱり、そこはしっかり光を当てていかなきゃいけないところなのかなというふうに思います。誰一人取り残さないようにという考え方の中で、大田で成長する子どもたちが健やかに育つというような環境づくりを考えたときには、そういった方々をどう救い上げていくのかということを次期計画の中にしっかり盛り込んで、いきたいなと私は思いました。その中で、相談する相手というのは、1つ、2つだけではなくて、3つ、4つ、多ければ多いほどまた解決の内容も深みが出てくるのかなというふうに思いますので、そういったことでの関係性をどうつくるのかということ

のきっかけづくりみたいなものは、行政、それから地域の皆様、関係団体と連携しながら機会提供をつくっていく必要もありますし、いろいろなところで取り組んでいる相談窓口の周知と、それから満足度を高めるための取組というのも一層、必要になってくるのかな、そんなふうに私は感じました。以上でございます。

○青木座長　ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

区長、何かありますか、最後に。

○鈴木区長　様々なご意見をいただいて、ありがとうございました。やはり、公募の委員の方からご意見をいただいたような視点が大事なのかなと強く感じました。生成AIの活用等々、これは、私ども行政としても避けては通れないところでございますので、これは、当然活用していかなければというふうに思いますが、私が個人的に思いますのは、やはりそこにぬくもりとか、温かみとかがなければ、相談をしていただいている方に響く回答は、改善策は、おつくりすることはできないと思います。私どもも丁寧に、しっかりとした対応をしていかなければなりません。若い方の思いがなかなか次の段階に結びつかないということにならないように、皆様のご意見をしっかりと集約していきたいと思っております。

○青木座長　ありがとうございます。

今年度第1回の青少年問題協議会の資料に計画策定の進め方というものがあります。今回、現在の課題をより深掘りするというのは、非常にこの調査でいろいろ出てきたかと思います。また、地域活動へ積極的に参画するこども・若者というカテゴリーと、特に問題を抱えていないこども・若者というカテゴリー、そして、問題を抱えているこども・若者という3つのカテゴリーに分けて、それぞれにアプローチできる計画をすることも書かれており、本日いただいたご意見の中でそういったところも出てきたというように思いますので、ぜひ今後の計画策定に生かしていただきたく思います。

それでは、本日、皆様よりいただいたご意見については、事務局でまとめていただき、来年度、子ども・若者計画の策定を担当する現在のこども家庭部へ引き継いでいただくようお願いいたします。

それでは、進行を事務局にお戻しします。

○有我地域力推進部長　本日は誠にありがとうございました。本日、様々な貴重なご意見を頂戴いたしました。

私が感じたことが3点ほどございますけれども、皆さんのご意見に対して全てお答えするのは時間の関係上、なかなか難しいのですが、まず、1点、情報提供のあり方と、それから相談のあり方ですね。こちらにつきましては、結果として、委員からも発言がございましたが、相談をしていただければ、何らか改善したということに結びついてるところが多数を占めてるということからすれば、いかにその相談につなげていくとかいう、その仕掛けが重要なのではないかとということを改めて感じたところです。ただ、一方で相談する気もない、あるいは期待してないというところに対してどういったアプローチをしていくことが必要なのかということを併せて検討していく必要があるかということを改めて確認をいたしました。また、その手段につきましては、A Iの話も出ましたけれども、確かに手続ですとか、窓口の案内等につきましては、自動的に出される情報のほうが早いというところもあるかと思います。ただ、血の通った相談、例えば顔を見るとか、あと声の調子だとか、そういったところで相談しやすい、安心を与えると、そういった効果もありますので、これは、実際には相談で人手をかけてやるというところの重要性は変わらないと考えております。これは両方、ICTの活用と、それから人による相談の二本立てでやっていきたいと考えております。

それから、若者の声の反映につきましては、今回初めて、調査の中ではアンケートだけではなく意見交換会を実施しました。区全体といたしましても、基本計画、それから、子ども・子育て計画につきましても、やはりこういった機会を設けておりますので、引き続き、こどもの意見の反映に努めてまいりたいと考えてございます。

また、関心というところでシティプロモーションにつきましては、大田区としても進めているところで、これは外からの関心だけではなく、大田区に既にお住まいの方々の地域への愛着ですとか、誇り、そういったものを醸成するということもシティプロモーションの概念としてございますので、併せてやっていきたいと考えてございます。

そして、地域とのつながりということにつきましては、様々な地域にお邪魔する中で、かなり積極的に関わってる地域も一部ございます。一例を挙げますと、小学校の時代に青少対活動に参加したこどもたちが、やがて二十歳のつどいの実行委員になるなど、すごくいい循環ができていう事例もございますので、小さいときからいかに地域に関わっていただくかが必要であると感じております。これも私ども所管の

部としてやっていきたいと考えてございます。

今回は調査の結果報告でございました。これをいかに計画に反映していくかということが重要と考えてございます。

それでは、今期の構成によるこの会は本日で最後となります。2年間にわたり誠にありがとうございました。

最後に、今後の日程についてご案内を申し上げます。

次年度の第1回青少年問題協議会は、令和7年7月頃、開催予定となっております。時間等、詳細につきましては、引き続き委員を委嘱させていただき委員の方々に通知をお送りいたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第3回大田区青少年問題協議会を閉会とさせていただきます。座長をはじめ、皆様、大変ありがとうございました。

午後3時30分閉会